

Vol.22  
2015 WINTER

# INSIDE

【繋ぐ】

広げる Special Issue:

## 1枚の紙が織り成す、 幾何学模様的美。

先どる 現代の世相を紙で具現化した  
富田菜摘さんの立体人物アート。

伝える 植村鞆音氏の新連載エッセイ  
「手紙」は語る。



# 織り紙

人の手と知恵が創り出す幾何学的美

基本的な折り紙を規則的に繰り返すことによって、美しい幾何学模様を創り出す「織り紙」。

たった1枚の紙を、角度を変えながら折り進めることで、さまざまな多角形を配した、複雑で立体的な形状が生まれます。新鮮な着想とそれを具現化する紙、そして精緻な手技によって世界中の人々を魅了し続ける「ORIGAMI」。

クール・ジャパンを極めた、その美しさの魅力に迫ります。



ORIGAMIアーティスト

布施知子 さん

1951年、新潟県生まれ。千葉大学国芸学部卒業。塾講師を務めたのち、1986年に版画家である鳥海太郎氏とともに、長野県大町市の山中に移住。ユニット折り紙の先駆者であり、折り紙ランプシェードなどの工業製品も手がける。その独創的な作品は海外でも高く評価され、フランス、ドイツ、オーストリアなどで個展を開催。著書は翻訳本を含めると100冊を超える。また、山中での暮らしを題材にしたエッセイとしても活躍中。写真右下は、愛猫の「コメちゃん」。



広げる ..... P01

人の手と知恵が創り出す幾何学的美「織り紙」

辿る ..... P06

1冊の本が読者をつなぐ図書館の「貸出カード」

伝える ..... P07

植村頼音氏による新連載「手紙」は語る

出会う ..... P09

“強み”を掛け合わせるコラボ企画の仕掛け人

先どる ..... P11

新聞や雑誌をコラージュ、時代を体現する「人物アート」

深める ..... P13

KPPの最新ニュースをキャッチアップ

訪ねる ..... P15

紙の魅力を体感できる「ペーパー・イベント・カレンダー」

作る ..... 付録

縁起モノ・富士山を模した「初夢・祝い箸袋」



# 「紙に触れていくなかで、 おもしろい形を見つけられます」



人の手と知恵が創り出す、  
究極のファインアート

長野県大田市。西方に北アルプスを望む山あいの  
県道から、車1台がやっと通れる鬱蒼とした細い林  
道へ。屋根が落ちかけている古い民家を横目にノロノ  
ロ車を進めると、笑顔で出迎えてくれる女性の姿。  
布施知子さんは、複数の紙をつないで造形する「ユ  
ニット折り紙」の第一人者として世界中にファンを持  
つ、人気の作家。くす玉、ギフトボックス、オー  
ナメントなどの装飾物から、直線を折りかさねて  
表現するらせん状のグラフィカルな作品まで、常に  
新しい折り紙に挑戦し、その可能性を追究し続ける  
開拓者でもあります。

そんな布施さんが近年意欲的に取り組んでいる  
のが、「平織り」と呼ばれる作品の創作です。布施さ  
んの作品は、山折り、谷折りを交互に繰り返す。蛇  
腹折りや、紙をひねって折ったたむねじり折り  
など、立体折り紙の一般的な手法とは一線を画し、織  
物のように平らに折られたたむね平織りのほか、独  
自に編み出した手法も並行して用いることで、織  
細かつ均整のとれた幾何学的な造形を創り出して  
います。そして何より驚きなのが、これらの作品は  
すべて「1枚の紙からできている」ということ。布施  
さんの作品は、実際の織物のように立体的に交差  
し、格子状のように見えるものや、バラボタンなど

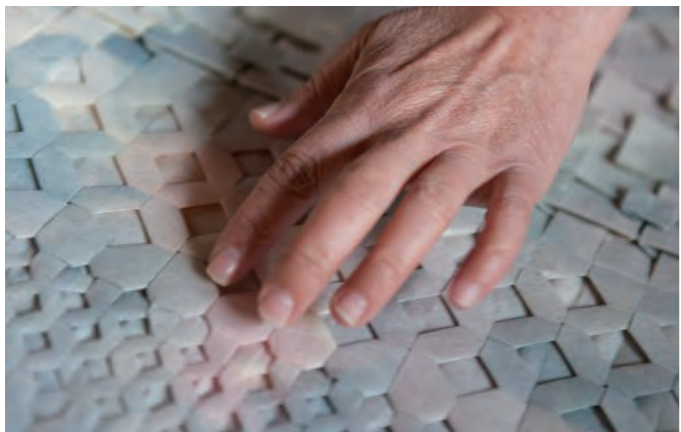
の植物を模したものなど、その構造がどうなってい  
るのか一見ただけでは想像がつかない作品はか  
り。制作工程について伺うと、「まずは、普段から小  
さなパーツのアイデアをストックしておくこと。それ  
らがうまくつながるような全体のデザインを考え、  
細かい寸法を割り出し、完成形を製図するのが第一  
段階です。その後、先の鈍った錐で、すべての折り角  
に線を引いていくのですが、この作業が大変。細かい  
神経を使うので、どうしても時間がかかります」と  
のこと。

すべての線を引き終わると、次は紙を折る作  
業。「パーツの粒が大きいものから折り進めていき  
ます。異なる粒があれば大きいものから、すべての  
粒が同じであれば端から折っていきますが、作業  
自体はそれほど手間がかからず、1週間程度で折  
り終えます」と布施さん。紙の重なり具合を計算  
して行う設計、パーツの緻密な配置の肝となる線  
引き、そして根気よくいねいに紙を折るとい  
う、すべての工程に要する時間は、大きな作品となれ  
ば約5ヵ月にも及ぶそうです。「設計図はパソコン  
で制作しますが、計算処理、線引きや紙を折る作  
業はすべて、自分の手で行います。私の作品って  
ローテクなんです(笑)」と布施さん。彼女の作品  
は、人の手と知恵が創り出す、究極のファインア  
トなのです。

神業と言っても過言ではない、布施さんの作品。  
その着想や設計の源についてたずねると、「特に数  
学が得意な訳ではないんです(笑)。角度を少しず  
つ変えながら手探りで折っていくうちに、おもしろ  
い形を発見する。あとで計算してみると、それぞれ  
の対角線が $\sqrt{2}$ 、 $\sqrt{3}$ 、 $\sqrt{4}$ ときれいな法則になっている  
ことに気づくこともあり。あらかじめ計算し  
てつくるのではなく、折りながら「こうなるかも」と  
発見していくことが多いですね。途方もなく時間の  
かかる作業ですが、その苦勞の果てに新しいことを  
発見する楽しみがあるからこそ、続けているのかも  
知れません(布施さん)。

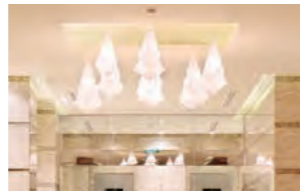
## 自然が色濃く残る山中で続く 布施さんの創作活動

布施さんと折り紙との出会いは、小学2年生  
のころ。大病を患い病院で過ごした2ヵ月半と退  
院して学校に通い始めるまでの間に、折り紙の魅  
力に触れ、瞬く間に虜になったそうです。「当時、  
同室の患者さんたちが、薬を包む。薬包紙」を  
使ってくす玉をつくっていたんです。それから  
本を見ながらいろんな折り紙をつくったのです  
が、劇薬用とは知らずに赤い薬包紙がきれいに見  
えて、欲しくてたまらなかつたのを思い出しま  
す」と、当時を振り返ります。



## インドネシア「AXIA South Cikarang」に、 「織り紙」とLEDパネルのコラボレーション作品を設置

色鮮やかな和紙を使った布施さんの平織り作品が、  
インドネシアのホテル「AXIA South Cikarang」に設置されました。  
背面のLEDパネルによって生み出される幻想的な美しさは、  
宿泊客の視線を釘付けにしています。





※写真は、ベアハウス社「読書記録しおりワタシ文庫」の使用イメージです。



今回のテーマ

## 図書貸出カード

1冊の本が読者どうしをつなぐ  
図書館の「貸出カード」。

古い本の匂いがこもった学校の図書館。放課後になると、中庭の大きなイチョウの木が見える窓際の机を陣取り、書架から抜き取ってきた本を品定めするように流し読みした記憶がよみがえります。

当時、図書館の本のいちばん後ろには小さな紙ポケットが貼り付けられていて、過去に本を読んだ利用者の名前や貸出日を手書きで記した、貸出カードが差してありました。そこに知っている名前を見つけては、妙な親近感を抱いたり、すでに卒業したであろう見知らぬ名前であっても、本の好みか似ていることが嬉しくて、時間を越えたコミュニケーションを感じたりしたものです。

当時の貸出方法は「ユーアーク式」と呼ばれるもの。近年はIT化が進み、プライバシー保護の観点からも見直しが行われたことで、貸出カードや個人カードは廃止に。その役割をICカードが担うこととなり、煩雑な事務作業は大幅に簡略化されました。しかし目当ての本を見つけては、カードに名前や貸出日、返却予定日を書き込み、図書委員や司書に手渡すといった手順を踏むことで感じる人の温もりは、次の世代にも伝えたいと思っただけです。

そんな貸出カードが、当時の風合いをそのままに、新たなストーリーナリーとして復活しています。ベアハウス社から発売されている「読書記録しおりワタシ文庫」は、本のタイトルや著者名、読み始めた日や読み終えた日、さらには簡単な感想も書き込めるしおりになっているのが特徴。その懐かしいデザインはもちろん、カードに記された本の履歴を辿ることで、読み終えた当時の読後感がよみがえるというのも好評の理由だとか。カードは貸出カード同様、付属のノリ付きブックポケットに収納可能。読書家にはたまらない逸品です。

「読書記録しおりワタシ文庫」

発売：ベアハウス <http://www.bea-house.com>

カードは3枚1セット、カラーは、ネイビー、グリーン、ピンクの3色あり。専用封筒として、図書館用品メーカー(株)伊藤伊社製の「ノリ付きブックポケット」が付属。

## 「最初にどの紙を手にするかで、どんな作品になるのか、決まる気がします」

布施さんはその後、大学入学を機に上京。卒業後は、浅草にあった学習塾で約10年講師を続けながら、折り紙の創作活動を続けたそうです。「転機となったのは、当時の筑摩書房の編集長から、折り紙本の著作を依頼されたこと。折り紙のつくり方や考え方をまとめた本だったので、その方には折り方や文章の書き方など、相当絞られましたね」と布施さん。その後、ユニット折り紙と出会い、新境地を開拓。時を同じくして居を移すこととなり、長野県の山中、築100年を超える古民家への移住を決めたそうです。「もともと自然豊かな環境に住みたいと思っていたので、迷いはありませんでした。私の作品は、自然の造形からたくさんヒントを得ているんです。家は、越してきた時点ですでにボロボロでしたが(笑)、壊れたところを修理しながら暮らして約30年になりました」と語ります。「人より動物の方が多い(笑)」という言葉どおり、手つかずの自然、野生動物や四季折々の美しい植物に囲まれた落ち着いた環境のなかで、斬新な作品を創作し続けています。

どんな作品をつくるかは、手にした紙によって決まる。

「最初にどの紙を手にするかで、作品の方向性が決まる気がします」という言葉どおり、布施さんの作品において最も重要なフアクターは、紙。「折り紙用や



うず巻き状に伸縮する「らせん」作品



折り紙の技法を施した「箱」作品



大量にストックされている試作品



ヨーロッパで製品として発表した「折り紙ランプシェード」

和紙、ボール紙、難燃紙など、紙を手にした時点で考え方が変わってくる。厚さやコシ、透け具合など、紙の種類はものすごくたくさんあるので、そのぶんだけ作品の可能性が広がっている気がします」と布施さん。都内に出るたびに新しい紙との出会いを求めて、洋紙店、和紙店をハシゴするという布施さんですが、その作品が大きくなればなるほど、紙の入手には頭を悩ませていたそう。「大判でよく使うのは、OKGロールデンリバー」、薄手の「マーメイドリップル」ですが、ロール状で市販されている商品がないんです。ロールでなくても、長さが30メートルくらいの紙を売っていた方があればご紹介いただきたいですね笑」とのこと。

世界から高い評価を受ける  
布施さんの「ORIGAMI」

前述の「筑摩少年図書館シリーズ」(筑摩書房)から2冊の著書が出版されたのを機に、これまで国内だけで80冊、海外向けに翻訳されたものを含めると、100冊を超える、折り紙の本を世に送り出してきた布施さん。「私がユニット折り紙の本を最初に出したこともあり、いろいろな国のクリエイターからも声をかけていただくようになりました。また作品の展示依頼も多く、これまでドイツの現代美術のシンボル「パウハウス」での個展や、フランスのカルゼル・デュ

布施知子さんの展覧会

ドイツ

2015年8月~10月

「Schafhof-Europäisches-Künstlerhaus-Oberbayern」にて、ドイツ人、フランス人と3人合同の展覧会。

日本

2016年4月~5月

「安曇野市豊科近代美術館」にて、平織りの新作が多数出展される、大規模な企画展覧会。

ヨーロッパで行われた展覧会への出展など、布施さんの「ORIGAMI」作品は海外でも高い評価を受けています。「海外の方は日本独自の折り紙文化をリスペクトしています。造形に対しての視点が自由なぶん、私の作品を気に入ってくれるのかも知れません」。誰でも気軽に楽しむことを目的とした折り紙の本の著作活動に区切りをつけ、今後は平織りをはじめ、さらにグラフィカルな作品を中心に創作していきたいと語る布施さん。今後はまず、今年8月から10月までドイツでの展覧会と、来年4月から地元豊科近代美術館(長野県安曇野市)で開かれる企画展覧会に向けて準備を進めていくつもりです。ほかにも、折り紙の技法を応用した製品づくりにも挑戦したいですね(布施さん)。その枯れることのない創作意欲は、布施さん独自の「ORIGAMI」として、新たな世界を切り拓いていくに違いありません。



「手紙」は語る

植村 鞆音

第一回 丸谷才一

知識人にふさわしい見事な最期

丸谷才一さんは旧制新潟高校で父の教え子だった。父が松山高校から新潟に赴任したのが太平洋戦争の始まる昭和十六年。丸谷さんが新潟高校に入学したのが終戦の前年、昭和十九年である。丸谷さんは随筆等で父のことをずいぶん書き残されている。おそらく、反骨精神旺盛で軍国主義に批判的だった父に敬意と共感を覚えられたのだろう。旧制高校の教育とは知性による世界の認識を高く評価するものであったというが、読書家で博覧強記といわれた父に丸谷さんはご自分と同質のものを見出されていたのかもしれない。

わたしが丸谷さんを直接お見かけしたのは、昭和五十五年一月と二月、二回にわたる父の喜寿の祝いの席であった。二回とも丸谷さんが教え子として祝辞を述べられた。

父が死んだのが昭和六十二年五月である。わたしは丸谷さんに葬儀委員長をお願いすることを思いつき、おそるおそる電話を入れた。丸谷さんは快く引き受けてくださった。わたしの丸谷さんとのつき合いはそれ以降のことである。

したわたしは、六十二年間一教師だった父の評伝に取りかかった。『歴史の教師 植村清二』がそれである。

原稿を最初に読んでいたのは丸谷さんと決めていた。中央公論の丸谷番だった小林久子さんに原稿を届けてもらい、目黒さんま坂のマンションに丸谷さんを訪ねたのは十九年春のことである。会うなり、「鞆音くん、いいよ。一冊本を出すよ。こんなに進歩するんだな」とおっしゃった。緊張していたわたしの心に一気に安堵の波が広がった。それから、近くのホテルの

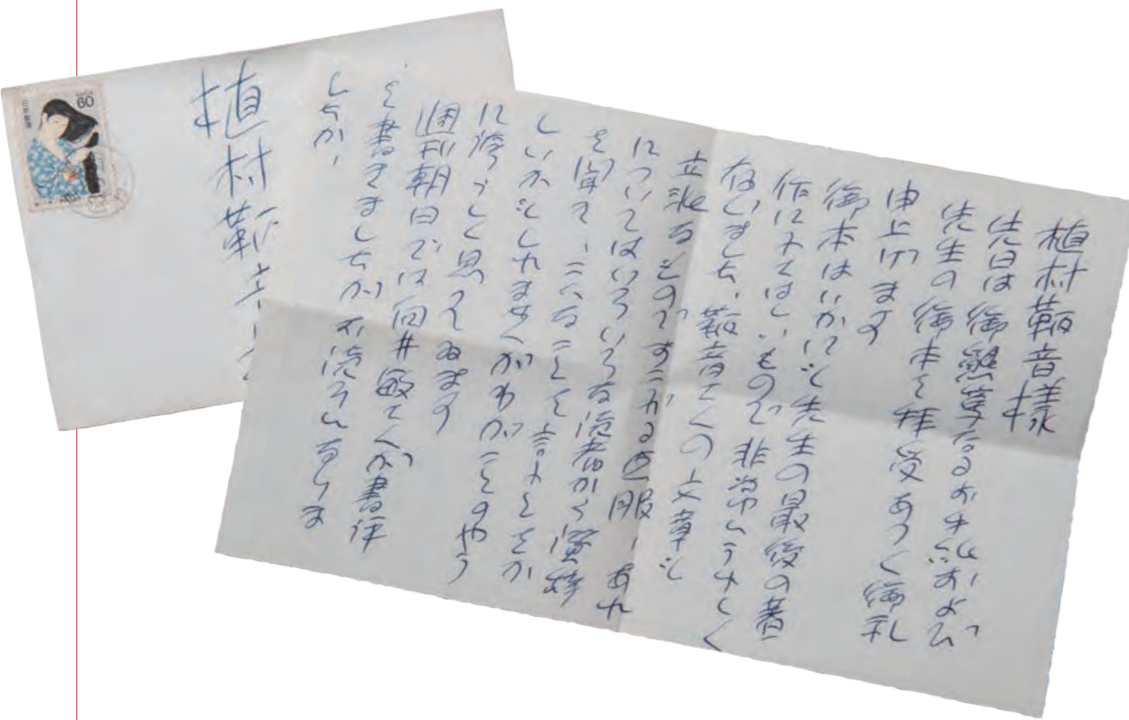
わたしは、ほぼ十年まえ、六十五歳でサラリーマンを辞め著述業を目指したが、それには、丸谷さんからの手紙がいくらか関係している。父の死後、わたしが父の遺著『アジアの帝王たち』に書いた解説を丸谷さんが褒めてくださったのである。「御本はいかにも先生の最後の著作にふさはしいもので非常にうれしく存じました。鞆音さんの文章も立派なものです。こぶる感服。あれについてはいろいろな読者から讃辞を聞き、こんなことを言ふとをかしいかもしれません。わがことのやうに誇らしく思つてゐます」

この褒め言葉がわたしの第二の人生を著述業に駆りたてた。最初の著作は伯父・直木三十五の評伝『直木三十五伝』であったが、出版記念会ではスピーチも頂戴した。平成十七年九月二日のことである。「四刷といふのはすごいことですよ。おめでたう。先生が御存命ならさきつと羨んだにちがいないと思ひます」これは出版直後のお葉書。

『直木三十五伝』がちいさな賞を受賞したことでも意を強くロビーで微に入り細に入り講評を受けた。丸谷さんの手にされたわたしの原稿には朱がいっぱい入っていた。「帯を書いて欲しい」というわたしの依頼に、「帯でも書評でもいいほうを書くよ」といつていただいた。書評は発売当日「毎日新聞」に載った。

講評を受けた夜のことである。丸谷さんから自宅に電話が入った。「鞆音くん、書評以外にどうしても先生のことを書きたいんだよ。もう頭の中で文章ができあがっている」。わたしは、いわゆるまま編集者に頼み裏表紙の余白を確保してもらった。それは、無署名であったが、実に心のこもった師植村清二の紹介であった。

丸谷さんが、知識人にふさわしい見事な死を迎えたことはあまねく知られている。残された仕事を全部仕上げ、奥さんのために遺産を用意し、友人たちに形見を送り、辞世の手紙を書いた。わたしは遺品こそ頂戴しなかったが、生前「長いあひだいろいろありがたう。平安を祈る」というお手紙と、死後『八十八句』という句集を受け取った。句集には、「『親しくさせていただいた方々にお送りするよ』というのが父の遺言でした」という令息・根村亮さんの挨拶文が同封されていた。いかにも丸谷さんらしい心配りだと思ふ。



まるや さいいち  
丸谷 才一

小説家/1925~2012



山形県鶴岡市出身の小説家、文芸評論家、翻訳家、随筆家。主な作品に『笹まくら』『年の残り』『たつた一人の反乱』『裏声で歌へ君が代』『女ざかり』など。『年の残り』での芥川賞(1968)をはじめ受賞歴多数。文化功労者(2006)、文化勲章(2011)受章。芥川賞選考委員もつとめた。日本文学の暗い私小説的な風土とは異なる軽妙で知的な作品で人気を博した。一貫して旧仮名遣いにこだわったことでも知られる。

著者略歴  
うまむら ともね  
植村 鞆音  
エッセイスト



小説家・直木三十五の甥、東洋史学者・植村清二の子として愛媛県松山市に生まれる。1962年早稲田大学第一文学部史学科卒業後、東映、テレビ東京に勤務。1994年同局常務取締役。1999年テレビ東京制作代表取締役社長。DACグループ顧問。一般社団法人STEP理事。2005年「直木三十五伝」で尾崎秀樹記念・大衆文学研究賞受賞、2007年「歴史の教師植村清二」で日本エッセイスト・クラブ賞受賞。主な著書に「夏の峠」「気骨の人 城山三郎」など。

「手紙について」

人を知るにはいろいろな手段がある。ゴルフやマージャンの相手をするのは手っとりばやい。数時間を一緒に過ごせばまず人となりの見当がつく。が、手紙ほど人を知るに恰好の材料はないのではなからうか。手紙は文字でなりたつ。文字は英語でレターもしくはキャラクターというが、レターは手紙そのものであり、キャラクターはまた人格、品性を意味する。

近年、パソコンやネットの普及で手紙を書く人がすくなくなつた。でもうつくしい文字、うつくしい文章は心をうつ。恩をうけた人への礼状、愛する人への恋文などは、メールではなく手書きの手紙にしたいものである。手紙は書き手にとって思考の修行にもなるし、受け手にとっては感受性を養うよい機会となる。ちがうだろうか。



「平成浮世絵シリーズ『黒澤威一郎』」  
浮世絵を連想させる現代の人間像をレリーフ  
作品にしたシリーズ。新聞紙を使用。



「さんさん待たせてごめんなさい」  
それぞれの人物にふさわしい文字や写真を使って  
制作された等身大サイズの作品。



「騎馬戦—国会乱闘」

混乱する国会を騎馬戦に見立て、  
風刺を込め、表現した作品。



ワイシャツ部分には与野党の対立記事、肌の  
部分には政治家の顔の切り抜きを使用。



「午前8時の丸の内線」  
通勤時間の電車内を表現した作品。人物を典型化する深い洞察力が伺える。

「斉藤太郎」／「武井彩芽」

文学好きな老人と、  
女子高生をモチーフ  
にした作品。肌には、  
顔の切り抜きを使用。



富田菜摘さんが個展を開催

富田さんの新作を鑑賞できる個展が開催されます。現代を象  
徴するアイドルと、当時プロマイドのような役割を果たしてい  
た浮世絵の世界をリンクさせた作品などが発表されます。  
○期間：3月2日(月)～20日(金) ※日曜、祝日休廊  
○会場：ギャラリー東京ユマニテ  
(東京都中央区京橋2-8-18 昭和ビルB2F)

“いま”をリアルに具現化する、  
富田菜摘さんの人物作品。

国会で乱闘する政治家、若者を虜にする人気アイドルから、電車で  
居眠りをするサラリーマンや女子高生などの一般の人まで。それら人々  
の表情やしぐさ、服装や持ち物までを、それぞれのキャラクターを象徴す  
る新聞や雑誌の切り抜きによって表現したのが、富田菜摘さんの人物  
作品です。精妙かつ風刺を仕込んだ人物造形作品の数々は、時代の  
“リアル”を鋭く切り取ったアートとして、現代美術界からも大きく注目を  
集めています。

——この表現方法に至るまでの経緯を教えてください。

私のものづくりの原点は“紙”でした。小学生の時に、かぼちゃを煮てそ  
の繊維で紙をつくり、かぼちゃのランプをつくるなどして楽しんでいま  
した。その後、高校3年からは自然のなかの生き物をモチーフに選び、その  
真逆のものである都市の廃材を材料にして作品づくりに取り組むよう  
になりました。人物作品のシリーズは、人間をテーマにしたいと思っ  
たときに、人間の使う言葉が溢れている新聞や雑誌に着目したことから  
生まれました。新聞や雑誌は、社会情勢や流行、人気アイドルなど、その  
時の“いま”を色濃く表しています。私は、その“いま”のメディアを用いて、  
“いま”を象徴する人物像を表現したいと思っています。

——レリーフ作品ができあがるまでの工程は？

まずは描き起こしたデッサンを基に段ボールに拡大して写し、その上  
に紙粘土をもりながら全体像を形成していきます。次にその表面を紙やす  
りで削って凹凸を整えたのち、テーマとなる新聞記事や雑誌の切り抜き  
を色彩で選びながら、カタチに合わせて貼っていきます。

——ひとつの作品ができるまでの所要時間は？

作品によってさまざまですね。アイドルをモチーフにした作品であれば、大  
量のアイドル雑誌を買い込むところからはじまるのですが、そこから顔や  
文字を大量に切り抜き、分別する作業にも時間がかかるので、乾燥させ  
る時間も含めて1体につき2週間前後はかかっています。

富田 菜摘 さん



とみたなつみ○1986年生まれ、東京都出身。多摩美術大学絵画学科油画専攻卒  
業。大学在学中に、新聞や雑誌を素材とした人物作品、金属廃材を素材とした動  
物作品の創作を開始。同大学を首席で卒業後、2007年に初個展。以後、東京、大  
阪、名古屋などの国内主要都市、香港、シンガポール(現地で廃材を調達、創作)な  
ど海外でも個展を開催し、好評を博す。現在、最も注目される若手作家のひとり。  
[WEB] <http://tomitanatumikan.wix.com/tommy>

——作品のテーマは、どのように探していますか？

街中の行列やテレビで歌って踊るアイドルなど、普段の生活のなかで目  
にしたもの、気になったことからイメージを膨らませています。なかでもとく  
におもしろいと感じているのは、“他人の集団”。行列は気づ知らずの  
人々が集まり、きれいな列をつくって並んでいますし、電車の車内ではほ  
かの人が肌の触れ合う至近距離にいるにもかかわらず、みんな自分の  
携帯電話をのぞき込むなど、それぞれの世界に入り込んでいて不思議だ  
な、と。そういった日常の光景が作品のテーマになっています。

——金属廃材を使った作品も多数発表されていますね。

壊れたコウモリ傘を素材にした“コウモリ”や、キャスト付きのイスを土  
台にし、甲羅に人が乗って移動することもできる“カメ”など、動物をモ  
チーフにした作品が多いですね。一度役割を終えたものを生き物として  
生まれ変わらせたいという思いで、作品づくりをしています。

——展覧会のほかにワークショップも行っているそうですが？

主に子どもたちを対象として、プラスチック廃材を使ったワークショップを  
開催しています。参加する方に、自宅にあるものや愛用しているものを持  
参していただき、素材の形状や色彩を生かした作品づくりを体験してもら  
っています。普段何気なく使っているもの、捨てしまっているもののな  
かにも、よく見るときれいな色合いやおもしろい形がたくさんあることに気  
づいてもらえたらうれしいですね。

——今後の活動について教えてください。

紙の作品では、その時の“いま”を表現することをテーマに、等身大の人  
物作品を創り続けていきたいですね。年々新作を追加し、作品を時系列  
にそって行列のように並べて展示することで、移り変わる“いま”を表現し  
たいと思っています。



富田さんの創作風景。アトリエには、新聞や雑誌、金属の廃材が大量にストックされている。



▶ 本社1階エントランスでの年間を通した企画展示  
「KPPのイチおし！」

当社では、本社1階エントランスにおいて「KPPのイチおし！」と題し、2012年より企画展示を実施しています。2014年は、第6弾～第10弾までを開催し、当社が展開している社会貢献活動や、新規ビジネス等をお知らせしました。この1年に実施した内容について、あらためてご紹介いたします。

第6弾 スポーツイベントのスポンサーになりました！



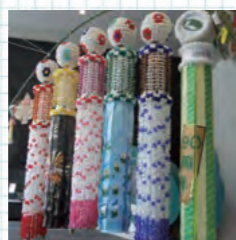
アジアリーグアイスホッケー2013-2014において、フリープレイズに特別協賛。アイスホッケーゲーム3戦並びにリーグ主催のクリスマスゲームで行った「古着回収キャンペーン」の模様などを、パネル・映像・オリジナルユニフォーム等の展示によって紹介しました。

【会期:2月28日～4月11日】

第8弾 仙台七夕飾り

2012年より社会貢献活動の一環として全社で続けている、七夕飾りの展示を行いました。本社エントランスでは、創立90周年記念の社章ロゴマーク入り1基を追加した合計6基の七夕飾りを設置し、制作過程を映像で紹介しました。また、社員・お客さまに短冊に願いごとを書いてもらい、竹笹に飾りつけていただきました。

【会期:6月23日～8月8日】



第7弾 PAPERMALLリニューアル



当社ECサイト「PAPERMALL」では、一般紙、特殊紙などの紙や見本紙サンプル、紙製品など約1,000アイテムを取り揃えています。2014年4月にリニューアルを行い、法人向けサイトではID・パスワードによる情報管理、支払業務の効率化をはかり、個人向けサイトでは用途・特徴・種類から探せる目的別検索機能を充実化。展示ではこれらリニューアルのポイントなどを説明するとともに、当社が運営協力している「サンエックスネットショップ」も紹介しました。

【会期:4月14日～6月19日】

第9弾 KPPカフェプロジェクト



営業推進営業本部で開始された珈琲充填事業を紹介。パッケージ販売を軸に、原料(珈琲豆)の調達からギフト商品の発送まで、BtoC商流すべてに介入をめざす同本部の事業をPRしました。9月19日には、「イマだけの味KPPカフェ工房」と名付け、珈琲の試飲会および頒布会を実施し、盛況を博しました。

【会期:8月25日～10月3日】

第10弾 KPPのあゆみとみらい

本誌「TSUNAGU」との連動展示として、1924年の創立から現在までのあゆみをパネルと映像で紹介。昭和初期、社員が重い紙をかつぐ際に着衣の上にとまっていたという、社名入りの厚司織りも展示しました。



「YUPO」製品特集

画期的な製造プロセスから生まれた「魔法の白い紙・ユポ」。誕生以来、改良を重ねて現在は日常生活のさまざまなシーンと密接に結びつき、その役割や機能は多岐に渡っています。合成紙「ユポ」をあらためて知っていただくために、最終製品を中心に展示、紹介を行いました。

【会期:10月6日～12月19日】



▶ 機密文書処理施設  
「ecommo LINCLE (エコモ リンクル) 市原センター」がオープン

昨年10月1日、国際紙パルプ商事は、機密文書処理施設「ecommo LINCLE 市原センター」を千葉県市原市に開設いたしました。

機密文書等の処理は、個人情報漏洩事件がマスコミで大きく報道されるなど、関心度の高い社会問題のひとつとなっています。かねてより循環型社会の実現をめざす当社では、企業から出る機密文書を安全に回収・再資源化したうえで、導入企業のニーズに合わせた紙製品に再生するエコモデル、「オフィス ecommo」を展開してまいりました。この度、「ecommo LINCLE 市原センター」の開設によって、自社施設による破碎・減容処理が可能となりました。

当施設は、回収した機密文書を段ボール箱ごと破碎、固形化に至るまでを一貫して行うことで、高い機密性を保持すると同時に、リサイクル可能な原料化を実現。また、トレーサビリティシステムや監視カメラ、電子ロックドアなどを完備、さらにはISMS認証を取得致しました。これまでにない新たな手法による書類の機密抹消を行う施設として、将来の処理能力拡大も視野に入れています。今後もさまざまなお取引先からの要望に応えながら、環境事業拡大へとつなげてまいります。



DATA ecommo LINCLE 市原センター  
千葉県市原市姉崎海岸111番地  
[破碎・減容処理能力:250トン/月]



▶ 北日本支店を新設、  
組織力強化をめざす

当社は10月1日付にて仙台支店と札幌支店を統合し、「北日本支店」を新設いたしました。新体制のもとさらなる業務効率化と事業拡大をめざしてまいります。

■国際紙パルプ商事株式会社 北日本支店

〒980-0021 仙台市青葉区中央2-2-10 仙都会館ビル  
TEL:(022)266-2027 FAX:(022)267-5273  
(旧仙台支店の住所・TEL・FAX番号と同一)

□仙台営業部(旧仙台支店)

上記、北日本支店内に仙台営業部を設置。  
※住所・電話番号等に変更はございません

□札幌営業部(旧札幌支店)

〒060-0002 札幌市中央区北2条西2-1-5 リーゼントビル  
TEL:(011)241-2291 FAX:(011)251-5726  
※住所・電話番号等に変更はございません

▶ 本社設置のAED貸し出しで  
京橋消防署より表彰される

本社1階に設置したAED(自動体外式除細動器)が人命救助に使用されたことから、12月4日、当社は京橋消防署より表彰を受けました。これは本社付近でAEDを必要としている方がいたところに、当社従業員が通りがかり申し出たものです。

当社では2008年よりお客さまや従業員、通行の方々の救命のための応急処置ができるようAEDを設置しており、いざという時に備え定期的に使用方法の講習会も実施しています。

また、その他支店においてもAEDは設置されております。



代表して表彰を受けた宮本厚生課長。

編集後記

新年明けましておめでとうございます。

昨年は富岡製糸場と絹産業遺産群が世界遺産登録され、そして「和紙・日本の手漉き和紙技術」がユネスコ無形文化遺産に正式登録されました。近年、日本の伝統文化が見直され、世界的にも評価を受けたことは大変喜ばしいことでした。今号の巻頭特集は「織り紙」「織物」と見聞違うばかりの作品で、どうやって制作したのか皆目分らず、ただただ頭を捻るほどでした。このような素晴らしい技術が継承されていくといいですね。

最後になりましたが、これからも末永く愛読していただけるような誌面づくりをめざしていきたいと思いますので、今後ともよろしく願います。(J・S)

今号より「TSUNAGU」は英語版を作成することになりました。TSUNAGUという言葉にはこの冊子を通して読者とKPPを繋ぐという意味が込められています。英語版の創刊によりさらに多くの方々にKPPを深く知っていただくことに「紙の魅力」をお伝えしていければと思っております。(M・T)



2/5(木)~7(土)

EXHIBITION

## 第10回KPP文化展

社員の文化活動促進を目的に、隔年で催される恒例行事。絵画、書道、写真、手工芸など、社員が創作した100点を超える作品を展示します。

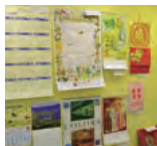


2/12(木)~13(金)

EXHIBITION

## 2015年 業務本部総合展示会

今回はタイトルを「紙と生活」として、紙が私たちの生活にどれだけ密着しているかを展示します。併せて、全国カレンダー展調査結果および当社受注カレンダーを展示いたします。



DATA

- 会場: 国際紙パルプ商事本社(東京都中央区明石町6-24)2F会議室
- 料金: 無料
- 問い合わせ: 国際紙パルプ商事 経営企画本部 経営企画部 CSR・広報課
- TEL: 03-3542-4169
- HP: www.kppc.co.jp

1/4(日)~23(金)

EXHIBITION

## 彩られた紙と現代の書—東京都美術館コレクションを中心に

書をしたためる紙の中でも、下絵や装飾を施した「装飾料紙」にスポットを当てた展覧会。「現代の書」と「料紙」が織り成す美の競演は、一見の価値があります。

DATA

- 会場: 東京都美術館(東京都台東区上野公園8-36)ギャラリーB
- 料金: 無料
- 問い合わせ: 東京都美術館
- TEL: 03-3823-6921
- HP: www.tobikan.jp

1/18(日)

WORKSHOP

Inter Tsurumi world culture series vol.23

## 中国の切り紙“窓花”ワークショップ

中国・黄土高原で多く見られる伝統住居「ヤオトン」。春節の時期、その格子窓に飾られる小さく美しい切り絵「窓花」づくりを体験できるワークショップです。

DATA

- 会場: 鶴見区民文化センター(神奈川県横浜市鶴見区鶴見中央1-31-2 シークレイン内)サルビアホール3Fリハーサル室
- 参加費: 1,000円(先着順20名)
- 問い合わせ: 鶴見区民文化センターサルビアホール
- TEL: 045-511-5711
- HP: salvia-hall.jp

~3/1(日)

EXHIBITION

## 紙で旅するニッポン ~関東・甲信編~

地理や自然風土などの条件によって、各地で発展を遂げた製紙業。その歴史や現状、各々の特色や製品・工芸品などを、体系的に紹介する企画展です。第一弾は、「関東・甲信」地域を取り上げます。



先着25組50名様に、ご招待券をプレゼント。ご希望の方は、ハガキまたはEメールに、①郵便番号 ②住所 ③氏名 ④電話番号 ⑤勤務先 ⑥本誌へのご意見・ご感想を明記のうえ、本ページ右下の宛先までご応募ください。

型染絵「現代日本紙漉場地図 東」(岡村吉右衛門画・昭和34年(1959))



江戸唐紙形(見本帳)(嘉永元年(1848))

DATA

- 会場: 公益財団法人 紙の博物館(東京都北区王子1-1-3)
- 入館料: 大人300円、小中高生100円
- 問い合わせ: 公益財団法人 紙の博物館
- TEL: 03-3916-2320
- HP: www.papermuseum.jp

1/24(土)

WORKSHOP

## あなたにも救える! 水損資料保全ワークショップ—写真と紙資料—

「阪神・淡路大震災から20年展」の関連事業として開催されるワークショップ。津波や風水害で濡れた写真や文書などの、誰にでもできる応急処置を体験できます。

DATA

- 会場: 兵庫県立美術館(兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1)アトリエ2
- 参加費: 無料(当日先着順35名)
- 問い合わせ: 兵庫県立美術館
- TEL: 078-262-0901
- HP: www.artm.pref.hyogo.jp

1/28(水)~30(金)

EXHIBITION

## Convertech JAPAN 2015

「塗る・貼る・切る」という三大要素の加工技術に関わる材料、装置、技術が一堂に会する総合イベント。モノづくりの基盤となる最新技術に触れることができます。

DATA

- 会場: 東京ビックサイト(東京都江東区有明3-11-1)東ホール&会議棟
- 入場料: 無料(ただしWebサイトでの事前登録が必要)
- 問い合わせ: (株)ICSコンベンションデザイン
- TEL: 03-3219-3568
- HP: www.convertechjapan.com

※開館日、開館時間等は、各ホームページにてご確認ください。 ※イベント、展示は、諸事情により変更される場合があります。お出かけの際は、事前にホームページまたはお電話にてご確認ください。



輸送マイルージとCO2排出を抑え、地球温暖化に配慮したライスインキを使用しています。

エコ・プレス  
バインダー

針金・糊・熱が不要な製本方法を採用し、リサイクルや怪我の危険へ配慮しています。



国際紙パルプ商事株式会社  
KOKUSAI PULP&PAPER CO.,LTD.

発行: 経営企画本部 経営企画部 CSR・広報課  
〒104-0044 東京都中央区明石町6番24号  
TEL(03) 3542-4111(代)  
Eメール: info-tsunagu@kppc.co.jp  
URL <http://www.kppc.co.jp/>

【TSUNAGU】vol.22 使用紙: ミューマツト(菊判76.5kg/北越紀州製紙株式会社)しなやかなボリューム感と滑らかな面感。乾燥性と印刷作業適性に優れたマツコート紙です。



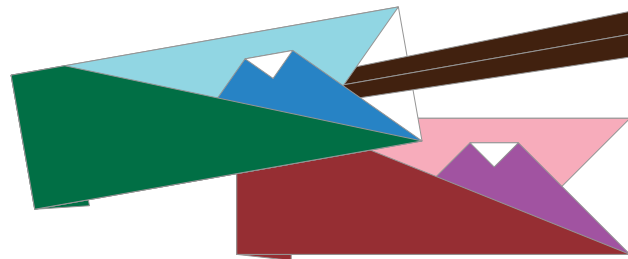
作る

紙と触れ合い、モノを作る

「PAPERCRAFT on the DESK」

## 布施知子さん考案「初夢・祝い箸袋」×2色

年神さまへの感謝とともに、今年1年が素晴らしい年となるようにとの願いを込めて使う「祝い箸」。初夢の縁起モノの富士山をあしらったこの祝い箸を使えば、さらに運気が上がること間違いなし! ご家族はもちろん、訪問されたお客さまにも幸運を分けてあげましょう。



オモテ面

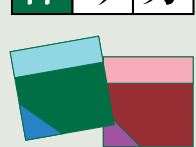
切りとり線 \_\_\_\_\_

折線 - - - - -

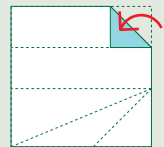
つくり方はウラ面をご参照ください。▶



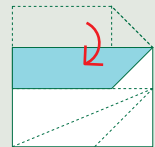
# 作り方



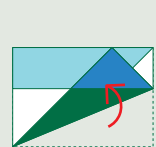
1 オモテ面の切りとり線に沿って、2枚の折り紙になるように切り分けます。



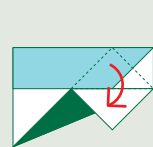
2 ウラ面の白い面をオモテにして、折線①に沿って折ります。



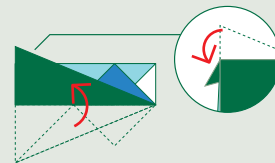
3 折線②を目印に、折線③に沿って折ります。



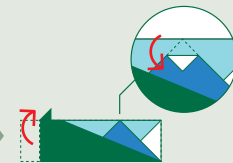
4 上記の図のように、折線③に沿って折ります。



5 折線④に沿って三角形の部分を折り返します。



6 折線⑤に沿って下部をすべて折ります。その際に左上に飛び出した部分を巻き込むようにウラ側へ折り込みます。



7 左端を2cm程度ウラ側へ折り返し、右上の青い三角部分を5~10ミリ程度折り返します。



「作る」vol.22 使用紙：キンマリN(菊判:48.5kg/北越紀州製紙株式会社) 蛍光染料を使わないナチュラルな白さ。文字から写真まで幅広く使用されています。

①

①

②

②

⑤

⑤

③

③

④

④